



No.31 (通No.110) 2023年2月4日

てつがく なかにわ

LEE'S レター 哲樂の中庭 2023年立春

季節のごあいさつに代えてリーズからおとどけするただ一つの通信

新春、立春、刷新、“刷心”

『オモウマ』効果

一年前にテレビで紹介された本町のフレンチ「Giro」。昨年末に恒例のディナー会に行きましたが、何と、まだランチの営業ができないほど夜の子約め絶えないのだそう。

「すごいねー、ジローさん!」と言うと、「東京からも来てくれますよ、それもリピーターで」と、これまでとまったく変わらない調子で返ってきました。ジローさんらしい。

あい変わらずのべらんめー調子で、変らず料理に熱心で、20年近く通っていて今回初めて食べたメニューもありました。めったなことでは動かない、ブレない。

そんな変わらないジローさんですが、一つ見た目が変わった。抜けたままだった歯を入れ、すこし若返ってみえたのでした。

「拠点ゼミ」拡大版

大阪市の「女性チャレンジ応援拠点」の今年度最終の「拠点ゼミ」が予定されています。詳細は未定ですが、ゲストスピーカーを交えセッションし、交流会も含む(拡大版)です。

日程のみ決定、詳細は追ってWebサイトなどで案内されます。

●開催日：3月4日(土)

<https://creo-osaka.or.jp/soudan/kyoten.html>



LEE'S (リーズ)

〒541-0046

大阪市中央区平野町1-7-1

堺筋高橋ビル5F Tel. 06-7164-0937

大阪NPOセンターRS B507

リー・ヤマネ・清実

Lee Yamane Kiyomi



今年1月22日が旧暦の元日でした。新旧ともに年が明け、新春です。いよいよ春が立ち、新しい季節がめぐり、気候も社会も目にみえて動き出します。

コロナ過から3年、よりよい世界の「新しい常態」はいずれ、世界情勢は混沌として、『Top Risks 2023』の一つに上がった「TikTokなZ世代」リスクは、相次ぐ迷惑行為動画 up が象徴的な事例かもしれません、社会のすそ野で起きている。

『社会の構造が変われば、人の意識が変わる。意識が変われば、行動が変わる』、良くもわるくも、でも、社会や時代が変わっても変わらないことがある。そんな一つを立春の“刷心”におとどけ、「老子」の第63章です。ご存知の方も多いと思いますが、今ふたたび。

*『老子訳注』(小池一郎) + 前段()は『井筒俊彦英文著作コレクション』から井筒俊彦訳

何もしないようにする。

(なさぬことによって、ものごとをなす)

何事も起こさずにいる。

(ひたすらものごとに関与しないことによって、ものごとに関与する)

味の無いものを味わう。

(味の無いものに、味わいを見出す)

小を大とし、少を多とする。怨みに報いるに徳を以てする。

難しいことは、易しいうちに手を下し、大きいことは、それが小さいうちにしてしまう。天下の困難は、易しいことから起こり、天下の大事は、小さなことから起こる。

それで聖人は、最後まで尊大にならない。だから偉大な事業を成し遂げることができる。軽々しく承諾するものは、めったに信用できない。

そもそも始めに易し過ぎれば、必ず後で難しくなる。それで聖人は、易しいことに対してさえもこれを難しいものとして対処する。だから、最後まで困難に遭うことがない。

| 見聞感考 | 「愛が頭から胸まで降りてくるのに…」

昨秋、新聞の広告をみて印象にのこった本『教養としてのラテン語の授養』(レドソル)。著者は韓国入初、東アジア発、バチカン裁判所の弁護士だそうです。

自国の大学に頼まれて始めたラテン語の講義が学外にも評判を呼び、本になって、韓国でよく売れ、日本語訳出版の運びになったのでしょう。昨年9月に第1刷、11月には第4刷。日本でもよく読まれているようです。

この本、ラテン語そのものではなくその周辺や背景のことを紹介しながら、著者のメッセージを読者に静かに語りかける。そんな一冊。読んでいて、著者と一緒に散策しながら、対話しているような感覚がしました。むりなく自然に読み進められ、ほのぼのとした気分になる。

同時に自分を顧みることになります。本文の中で時々ふれる著者自身についての記述を読むと、とにかく想像を絶するほど努力されたんだろうと想像できるからです。程度はまったく桁違いですが、自分をふり返らざるを得ません。

ところでこの本には古代の偉人の名句などもたくさん紹介されています。そして著者の大先輩で、韓国初のローマ教皇最高顧問をつとめた故人の言葉もありました。記録せずとも記憶する金言。

「愛が頭から胸に降りてくるのに70年かかった」

「70年かかった」に一瞬、息をのみ、「ああ…、そうか…」と、その重みを覚めます。愛という言葉は誰でも知っていますが、「知ってるつもり」、「言うは易く行うは難し」。われをふりかえり、70年になっても喉元あたりに留まっていそうです。